



オリーブ便り Olive News

2020.03.01

No. 429



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 田宮 隆

基本理念

患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

退職のご挨拶



香川大学医学部 皮膚科学 教授 窪田 泰夫

皮膚科医になって40年になります。最後の21年間を高岩堯教授の後任として香川大学(1999年から2003年9月まで香川医科大学)に勤務いたしました。あつという間の歲月でした。立ち止まり、振り返り、反省のもと次に生かすという余裕はなかったのが正直なところ。多くの方々にご迷惑をおかけしたことと思いますが、今頃反省しても手遅れです。ただただお世話になった方々に感謝するのみです。本当にいろいろとありがとうございました。この21年間を振り返ると、まず情報のスピード化が挙げられます。電子カルテは言うに及ばず、病気の記録や講義が35mmスライドからパワーポイントなどに移行したのも2001年頃からかと思

います。論文投稿なども電子化されスピードアップされましたが、逆にゆっくり深く考えるという余裕は少なくなったようです。2003年10月の香川大学との合併と翌年からの法人化に伴い経済的な余裕が少なくなったとも感じます。国の税収減少や少子化に備えて大学のスリム化は必要ですが、金銭的価値重視の風潮が強まり大学や病院での研究活動に影響を与えたように思います。2004年の卒後臨床研修制度や最近の新専門医制度なども大きな変化でした。このような変化の中、当院皮膚科の先生や当院皮膚科を離れて病院勤務や開業されておられる先生方も患者さんと真摯に向き合い、精進して来られました。今後も医学や医療はますます高度化、細分化され、発展し続けていくと思います。基本を忘れず、あきらめることなく、香川大学医学部附属病院皮膚科をさらに発展させていただければ私がそれ以上に望むことはありません。これから医学や医療に関わる方々が、忙しくともやりがいを感じる仕事に携わっているという喜びが感じられますよう、現在の様々な厳しい状況の中で皆様のご健闘を心より祈っております。これまで大変お世話になりました。改めて皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

退任にあたって



香川大学医学部附属病院 薬剤部長 教授 芳地 一

香川大学医学部附属病院には平成17年6月から薬剤部長を務めまして、今年度で退任することになりました。この約15年間で医療環境は大きく変化し、これまでを振り返ると多くのことが心に残っています。

中野節初代部長、森田修之前部長の後任として赴任させていただきました。赴任時、薬剤部員は18名の薬剤師と1名の事務員でした。現在は48名と8名にそれぞれ増員されています。増員とともに業務内容も激変しました。特に病棟薬剤師業務では、これまで服薬指導という形で病棟を訪問させて頂いていたのが、今では各病棟に常駐し医師や看護師等のスタッ

フからの医薬品に関する問い合わせを含め患者さんの薬物療法の支援を行っています。また、当院では多くのがん患者さんが診療を受けています。すべての抗がん剤の調製を薬剤部で行うことになりました。これは、メディカルスタッフの方々に対する抗がん剤の暴露対策になったと思っています。その他にも、PET医薬品の検定や感染対策など多くの業務を担ってまいりました。

赴任以来、「安全安心な薬物療法を支援する」をスローガンにして、薬剤部の機械化も進めてきました。調剤分包機のみであった時代から注射薬自動払出機、調剤支援機、持参薬鑑別機等々の機器の導入により、人間の弱点を補ってきました。その成果もあり、薬剤師の起こすインシデントは他院に比べても非常に小さいものとなりました。今では日本一の安全安心な薬剤部になったと自負しています。これも、医師・看護師を含めすべてのスタッフのご協力によるものと思っています。最後になりますが、病院スタッフの皆様にご感謝を申し上げます。

病院スタッフの皆様、15年間ありがとうございました。

退任にあたって



香川大学医学部附属病院 輸血部長(医学部地域包括医療学講座 教授) **窪田 良次**

香川大学医学部附属病院における約35年間の勤務を終え、令和2年3月末で定年退職を迎えることになりました。大阪府立成人病センターでの研修終了後、昭和60年4月から香川医科大学第一内科学講座(当時)で血液内科医として勤務を開始し、検査部、臨床検査医学講座を経て、平成9年12月から、輸血部講師として輸血業務にかかわることになりました。輸血副部長および輸血部長として約23年間当院の輸血業務に関わってきました。最初は、血液内科医でありながら輸血医療の知識は浅く、苦勞することも多々ありましたが、院内外の多くの関係者のご指導とご協力をいただき輸血関連業務を果すことができました。

輸血部では、適正で安全な輸血医療の実践、自己血輸血や移植医療関連業務などを推進してきました。また、2名の検査技師が医学博士取得する際に、その指導ができたことも良い思い出として残っております。血液製剤の適正使用も進んできており、また、当院では不適合輸血事故が発生しておらず、関係者の輸血医療への理解が進んでいることにつき深く感謝しております。

当院は、日本輸血・細胞治療学会認定の研修指定病院であり、認定検査技師や認定看護師取得のための研修施設としての役割を果たしていく必要があります。ただ、当院における輸血医療については、改善すべきところも残されております。引き続き、輸血医療の発展のため、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

これからの香川大学医学部附属病院の益々の発展と皆様のご健勝を祈念し、退任のあいさつとさせていただきます。

定年を迎えて



香川大学医学部附属病院 放射線部 診療放射線技師長 **笹川 泰弘**

昭和58年(1983年)10月の病院開設から半年後の4月1日付で採用となり、36年間勤務させていただきました。多くの皆様にお世話になり、定年を迎えることができましたことに対し感謝申し上げます。

私が着任した当時は開院して間もないこともあり、放射線部内の放射線装置は現在の10分の1くらいしか設置されておらず、順次導入されていく装置・設備に対し、法令上の申請、操作訓練、運用方法など、毎日深夜まで準備・検討を行ったことを懐かしく思います。30年が経ち病院再開発が開始され、昨年度で一応完了しました。病院の新規開設及び病院再開発の両方に関わったことは貴重な体験であると同時に大きな達成感を持つことができました。リニューアル後の病院の様変わりした様子を見るにつけ、感慨深いものがあります。

振り返ってみて診療放射線技師という職に就いたこと、また香川大学医学部附属病院に勤めたことに後悔の念はなく、やりがいのある良い職業、良い職場だと感じています。

今後とも放射線部の運営にご協力をお願いいたします。

香川大学医学部附属病院のますますの発展と皆様のご健勝を祈念し、定年退職の挨拶とさせていただきます。

心からの感謝を込めて



香川大学医学部附属病院 看護部 副看護部長 **松本 佐和子**

昭和58年の病院開設を機に国立循環器病センターより香川へ戻ってまいりました。

ICUで第一号の泌尿器科の患者さんを緊張しながら受け入れたこと、開院式のテープカットのシーン等が懐かしく思い出されます。当時、病院の外周に植栽された桜並木は若木ばかりでしたが、病院の進化を見守ってきた桜は今では見事な花を咲かせる大樹となりました。毎年新しい仲間を迎える桜の季節には、見事な桜の木とスタッフの成長を重ねながら歳月の重みを感じて過ごしました。

平成27年4月に安全管理部に異動しました。平成26年に大学病院で起こった重大事故を契機として、我々の大学も安全管理体制の再点検を求められました。現場の負担を軽減できることを優先して参りましたが、GRMとして未熟で至らなかった点ばかりで皆様には多大なご負担をおかけしたことと思います。これまで、様々なご協力とご支援を賜りました皆様に、心から感謝申し上げます。

県下唯一の大学病院として、最高の医療を家族のような愛情をもって安全に提供できる病院を実現できますよう心から祈念しております。

1.小児外科のあらまし

小児外科では赤ちゃんやこどもの一般外科(頸部、胸部、腹部、などの手術)を行っています。したがって、当院の小児外科に紹介を受ける患者さんは産婦人科や小児科からが多いです。小児外科の病気としてはお腹や鼠径部の病気(虫垂炎や鼠径ヘルニア、など)、呼吸器の病気(肺嚢胞や横隔膜ヘルニア)、食道内異物や外傷(ボタン電池を飲み込んだ、自転車で転んでお腹を打った、など)があります(図1)。これらの病気は一般に小児科や外科では対応出来ないため小児外科が誕生しました。

図1 小児外科疾患

- ▶ 呼吸器疾患(呼吸困難、肺炎をくり返す)
- ▶ 腹部疾患(腹痛、嘔吐、便秘)
- ▶ 泌尿器疾患(おしっこにばい菌が混じる)
- ▶ 異物・外傷(誤飲・誤嚥、交通事故)
- ▶ 鼠径部-陰囊(ふくらむ、玉を袋に触れない)
- ▶ ヘソが飛び出ている

2.小児外科の緊急の病気について

こどもは症状の訴えに乏しいため、ご家族が気づいた頃には病状が進行していることがあります。また、普通のかぜや腸炎から虫垂炎や腸重積症に移行していくことがあるため注意が必要です。特に元気がない、息が苦しそう、痛みがどんどんひどくなる、体重が減る、顔色が悪い、などは緊急の手術・処置が必要なことがあります(図2)。また、異物の誤飲や誤嚥はご家庭で確実に防止できるので小さいお子さんのいる家庭ではボタン電池やコインなどをこどもの手の届くところから遠ざけましょう。

図2 こどもの緊急手術・処置

- ▶呼吸困難(気道の閉塞、気胸、横隔膜ヘルニア)
- ▶内臓に血行障害がある。(腸が捻れている。重積している)
- ▶内臓に穴が開いている(胆道や腸の穿孔。)
- ▶腸閉塞や炎症(イレウス、虫垂炎)
- ▶出血や臓器損傷がひどい(交通事故など)

3.小児外科の手術について

当院では専門の訓練を十分に受けた小児外科専門医を中心に麻酔科や小児科スタッフとも協力し合いながら手術に当たります。また、胸腔鏡や腹腔鏡を用いた低侵襲の手術も行っています。

4.小児外科ホットラインについて

昨年春から小児外科ホットラインを設けました。医療機関からの専用ダイヤルですが、みなさまのかけつけの病院から当院小児外科スタッフに、より相談しやすくなりました。

※第47回イキイキさぬき健康塾(令和元年5月12日開催)の講演内容を要約したものです。



詳しくはこちら

シンポジウム:「地域で育む小児生活習慣病予防健診」について

香川大学医学部 総務課



昨年12月7日に一般市民を対象にしたシンポジウム「地域で育む小児生活習慣病予防健診」ー成育医療の地域ネットワークを産官学一体で構築するーを開催しました。シンポジウムでは、参議院議員 自見はなこ先生のビデオ講演をはじめ、県内での取り組みやその独創性・有効性についての講演や、他県における産官学連携の先行事例や、現在の遺伝子検査についての講演がありました。

パネルディスカッションでは、本学職員、行政関係者、医療関係者、学校関係者、患者会副代表等、様々な立場の方がパネリストとして出席し、一般参加者と質疑やご意見等を交えながら、既存の制度の問題点やその在り方について活発な

意見交換を行いました。

実施後のアンケートでは、香川県の小児生活習慣病予防健診を高く評価し、この制度の更なる発展について期待する、今後も継続的に開催して欲しい、という意見が多数寄せられました。本院では引き続き関係機関と連携し、この取り組みを広く周知し、更なる発展を遂げるよう努めて参ります。



臨床研究に関するご案内

香川大学医学部 倫理委員会委員長
香川大学医学部附属病院 治験審査委員会委員長
香川大学医学部附属病院 臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー 2020.3~2020.4月 予定表

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となるイベントがあります

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
3/5 木	14:00-15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
3/8 日	11:00-12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾 (脳の加齢性変化 どうな変化が起きている?)	総務課	(087)891-2008
3/10 木	14:00-15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と薬剤師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
3/10 木	14:00-16:10	医学部臨床講義棟1階講義室	がん患者サロン特別講演会	がん相談支援センター	(087)891-2473
4/12 日	11:00-12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾 (高齢者のお家でできるスクンケア)	総務課	(087)891-2008

編集委員会 (50音順)

(2020年2月現在)

阿部(看護)、荒井(検査)、井町(外来)、大高(医療支援)、樫原(管理)、笹川(放射線)、常森(病棟)、富田(経営企画)、芳地(薬剤)、前川(医事)、南野(副病院長)、横井(医療情報)、横川(総務) [委員長 田宮病院長]